

小回りルートの遺跡群 <スラ・スランなど>

——スラ・スラン (SRAH SRANG)



<聖地スラ・スラン>

スラ・スランとは、「沐浴の池」の意味で、東西約 700m 南北 300m の静かな聖地。

その昔、この聖池の中心には小祠堂が建立され、王が舟で参詣したと言われています。しかし、ポレ・ポト時代に水田に改修するために小祠堂は破壊され、姿を消したままとなっていますが、現在では地元の人々がこの池で釣りやピクニックを楽しんでいます。

——バンテアイ・クデイ (BANTEAY KDEI)



<バンテアイ・クデイ 東正面テラス>

スラ・スランと道を隔てた反対側（西側）に、バンテアイクデイの東正門があります。ジャヤバルマン 7 世によって建立されたこの僧院は、後のヒンドゥー教を篤く信仰する王の時代を経て増改築が行われ、混交並存の様式となっています。建設技法の稚拙さと砂岩の中でも特に風化作用に弱い材質のものを使用しているため、回廊や祠堂の屋根は殆ど崩れ落ち、崩壊が進んでいます。

上智大学の国際遺跡調査団がカンボジア人学生の教育研修と調査研究の対象としています。

——プラサット・クラヴァン (PRSAT KRAVAN)



<プラサット・クラヴァン、東正面>

921年、ハルシャヴァルマン1世により建立された煉瓦造りの5基の祠堂を持つ平面型の小神殿。この小さな神殿はヴィシュヌ神を祭ったもので、中央祠堂の壁面の煉瓦に直接彫られた、ヴィシュヌ神やヴィシュヌ神の妃ラクシュミー（ヒンドゥー教の美の女神）の浮き彫りは特に素晴らしいものとなっています。1964年にフランス極東学院によって修復されました。